

[DATA]



▲札幌の一角に広がる特別養護老人ホームやグループホーム、病院などが立ち並ぶ「西円山ハーティケアの丘」

社会福祉法人溪仁会

●北海道札幌市中央区北3西28-2-1号
サンビル5F

URL www.keijinkai.com/shafuku/

1981年、社会福祉法人南静会として設立認可され、翌年、特別養護老人ホーム西円山敬樹園を開設。2009年に現在の社会福祉法人溪仁会へ名称変更。札幌市を中心に、北海道内6つの市町村で特別養護老人ホームや介護老人保健施設などを展開するほか、障害者支援も行う。拠点数は60超。溪仁会グループのスローガンは、「『ずーっと。』人と社会を支える」

谷内 好

たにうち・よしみ

社会福祉法人溪仁会
理事長

開設から40周年を迎えた社会福祉法人溪仁会。トップを務める谷内好理事長は、5年先を見据えた中期経営計画として「ビジョン福祉45」を作成。職員を貴重な“人財”と捉えた新たな健全経営に踏み出した。

(撮影/津田明生子)

——社会福祉法人としての使命をどう捉えていますか。

当法人は1981年に札幌で創設し、それ以降、八雲町、美唄市、岩内町、喜茂別町、留寿都村でも介護事業を展開しています。これは戦略的なものではなく、いずれも地域からの要請を受けて実現した経緯があります。北海道は、都市部以外の資源の限られた地域では安定した介護事業の継続は決して容易ではありません。そこで、医療法人との両輪で持続的なサービスを提供する当法人への期待があったと思います。私どもとしては、地域に介護を必要とする方が

いる限り、応えていくのが社会福祉法人としての務めだと考えています。特に地方ではどうしても人員不足に陥ることがありますが、そういった際には他施設の職員が応援に赴くなど、法人内の支援体制も構築できつつあります。この点も地域からの要請にしやすい理由になるかと思っています。

また、近年、経営戦略のキーワードとして話題に上る「パーパス」という用語があります。これは存在意義を意味しますが、社会福祉法人そのものが存在意義の発揮を求められていると感じています。加えて、当法人は特定社会福祉法人にも該当するため、より倫理や社会貢献等に配慮したコンプライアンスに徹した介護サービスの提供に重きを置いています。これが社会福祉法人としての矜持であると考えています。

——課題に感じていることはありますか。

科学的介護の実践、人材不足、医療と介護の連携など課題を挙げればキリがありませんが、基本的には法令を遵守し、真面目に取り組んでいけば、介護事業とは安定

した事業であると考えています。しかしながら、抗いようもないのが自然災害であり、それに匹敵するのが新型コロナウイルス感染症です。当法人でも事業停止やサービスの抑制、罹患した入所者さんの病院搬送が叶わず、施設内で看取らざるを得なかった事例も生じ、非常に悔いと大きな課題の残るものとなりました。

そうしたなかで唯一の救いとなったのは、グループ職員の結束力です。ウェブ会議システムを通じてグループで毎日緊密な情報共有を行い、施設間で不足人員を融通しあったり、医療法人の感染管理認定看護師を派遣してもらうなど、グループとしての強みを実感する機会にもなりました。

——2022年4月には法人として40周年を迎えられました。

40周年を迎え、向こう5年間に当法人がどのようなビジョンで事業を展開するかを明示した「ビジョン福祉45」を作成しました。スローガンは、「健全な介護・福祉事業を推進し、職員の皆さまが幸せと感じる法人を目指して」です。第一のステークホルダーは、



職員の幸せを実現することが 健全経営への一歩

利用者さんとご家族ですが、職員すなわち「人財」もそれと同じくらい貴重なステークホルダーです。いわば人材マネジメントを意味するHRM（ヒューマンリソースマネジメント）の観点に重きを置き、職員が「ここで働いて良かった」と思える組織づくりの推進が最大の目的です。これまでの反省も込めて、職員のウェルビーイングにはひときわ力を入れていく計画です。

たとえば、70歳まで働ける体制づくりや多様なキャリアプランの用意のほか、地元の金融機関の協力のもとで資産形成の重要性などについて情報発信し、職員一人ひとりの生活全般をより良くするサポートができればと思っております。常に1300人の職員とその家族を念頭においた経営に取り組みます。

また今年度は、組織のなかで介護職がリーダーシップを発揮できる仕組みづくりに加え、中堅職員による「未来プロジェクト」も始動しました。当法人の将来を担う選りすぐりのメンバーが集結し、施設や法人のあるべき姿を議論しながら、実現に向けた策を練っているところです。こうした取り組みは、広報誌やSNSなども通じ、地域に積極的に開示していきます。地域からのさまざまなリクエストは、こちら側からの発信があつてこそ。本部機能もしっかり

発揮し、力を入れていきます。——経営トップとして、どのようなことを大事にしていますか。

職員の気持ちを汲む経営姿勢でしようか。シンプルですが、職員と直接顔を合わせる機会を大事にしています。あとは強いて言えば進取の努力で、自ら積極的な情報収集や学びの機会をつくるようにしています。職員に対しても、そうした学びのきっかけづくりとして、幅広いテーマの研修を企画しています。専門領域を極めることも大切ですが、それだけでは組織人としての成長には結びつきません。特に私たちの事業は対人サービスであることから、人間としての幅は広ければ広いほど良いというのが私の考えです。

幅広い視野を持って、2040年問題などを展望し、社会の潮流に即した健全経営に取り組みます。

Profile

一般企業を経て、1988年、医療法人深仁会に入職。専務理事・グループ統括本部長を務める。1995年、社会福祉法人南静会（現・社会福祉法人深仁会）監事、2004年、同法人理事長、現在に至る

第3期中期経営計画スローガン

健全な介護・福祉事業を推進し、職員の皆さまが幸せと感じる法人を目指して